

(2) - 4) ①天蚕による産品開発と地域づくり活用 (福島県伊達市霊山町・新潟県十日町市)

里山環境を利用した天蚕飼育により産品開発や交流・ツーリズム事業などを行い、地域活性化に結び付けている。

a. 取組の背景と経緯

天蚕の飼育は江戸時代から行われており、戦争中いったん途絶えたが、長野県で復活し、昭和 50 年代からは、バブル期の余波もあり天蚕ブームが到来し全国各地で飼育が始まった。しかし天蚕飼育のためには良好な飼育林の維持管理や生態についての深い理解と知識が必要であり、また昨今の経済状況に合わせて販路をどのように開拓するかという課題もある。

伊達市霊山町のりょうぜん天蚕の会では、里山と地域づくりのために天蚕を介した取組みを続けている。天蚕飼育を通じて地域の元気を引き出すために様々な分野の主体と連携して産品開発を行うとともに交流活動を活発化させてその普及に努めている。

新潟県十日町市では中越地震をきっかけに中山間地の創造的復興に向けて誕生した十日町市里山センターを中心に、ヤママユ懇談会が結成され、地域のシンボルであるブナやミズナラ林の中で天蚕飼育を行うことで、地域再生に向けた取組が進められている。

b. 活用方法

■特産品開発

天蚕を利用した製品づくりとして繭玉そのものを用いたものと糸を紡いで織物加工を用いたもの、成分を利用するものがある。

- ・繭玉を用いたもの：根付、朱肉入れ、ブローチ、ネクタイピンなどの工芸品や装飾品
- ・織物を用いたもの：バッグ、ショール、婦人服など様々な織物製品やその応用品。家蚕糸と合わせたハイブリッド糸を用いることで、光沢と柔軟性の両方を実現している。
- ・成分を用いたもの：企業と連携して開発した「天蚕シルク石鹸」があり好評を得ている。



写真：天蚕の繭玉や天蚕糸を用いた様々な産品(平成 24 年度里なび研修会にて)

■交流テーマとしての活用

生産地間での交流や、グリーンツーリズムの素材、子どもたちの郷土学習の素材などに活用されてお

り、中山間地域の活性化につなげている。

天蚕グリーンツーリズム交流会 H1. 7. 22 りょうぜん里山がっこうにて



天蚕生糸づくり体験コーナー

写真：天蚕を活用したグリーンツーリズムの取組
(平成 24 年度里なび研修会資料より)

■ 地域復興のためのシンボル活用

十日町市里山センターでは、中越地震からの復興のシンボルとして、地域の代表的な樹木であるブナを用いた天蚕飼育を試みている。ヤママユ懇談会を結成して住民有志と共に取り組むことで、天蚕飼育事業を地域の里山の恵みを活用した地域づくりへと結び付けている。



写真：

ブナを利用した天蚕の飼育実験。ブナの木全体をネットで覆い、その中で天蚕飼育を試みている。(撮影 2012 年、新潟県十日町市松代にて)

c. 保全活動や野生生物への効果

全国天蚕交流セミナーが開催されたり、全国生涯学習フェスティバルに参加するなど、取組の成果が広くPRされ、徐々に知名度を上げている。また、天蚕の生態についても研究が進んでおり、飼育方法に取り入れられることで、里山環境の保全と一体となった利活用が進もうとしている。